

ごあいさつ

日本体操学会第8回大会会長

千賀康利（京都産業大学）

ヒトは動物であり、生きて生活（生命の維持と適応）して行くためにはエネルギー消費と言う骨格筋の働きによる身体運動が不可欠であります。そして、人間は文化的な適応と自然的な適応という機能を持っています。これらがバランスの良い状態にあることを健康といたします。体育学は、健康管理やスポーツ活動におけるそれぞれの適応機能の向上という課題について、エネルギー消費という身体運動を素材に教育研究をしてゆくことだと考えています。健康課題では、進化の過程において獲得された手や脳の発達とライフスタイルにおける身体活動とのかわりを、スポーツ課題では、それぞれのスポーツ活動における効果や効率性について、探求し教育することになります。日本体操学会は、競技スポーツが中心であったわが国の体育教育を見直し、生活習慣や環境、人種、文化などを課題に人間文化としての広範な身体運動を教育研究の対象として取り組んでいます。身体論の原点に戻って、体育を健康やスポーツにかかわる身体文化について考える方向に切り替えることが極めて重要であると思います。身体運動は、日常的に生活文化として好奇心をはたらかせ楽しんで行うことが大切です。スポーツは国際的な共通の人間文化として発達してきましたし、健康問題は地球規模の課題になってきました。

体操学会の発展は、体育はもとより人間文化の発展において重要な役割にあると認識しています。この2日間の学びが有意義なものとなることを祈念し、ごあいさついたします。

ごあいさつ

日本体操学会第8回大会組織委員会  
委員長 吉中 康子（京都学園大学）

日本体操学会第8回大会は、皆様のご支援とご協力により無事開催の運びとなりました。ここにご協力いただきました皆様にあらためて厚くお礼申し上げます。

さて、近年になって、心が痛む事件・事故などが毎日取り上げられ、健康問題や生きがいの持ち方など、一人の力では解決できない大きな課題が新聞紙面で取り上げられております。「そんなの関係ねえ」などの言葉の流行は関係性のない社会を象徴しているようで、ファミコンやカードゲームでの遊びに時間やお金を費やす若者も、人との関係性を絶っているように思われてなりません。体操活動が今まで以上に必要とされる時代に突入したのではないのでしょうか。これまでに実践されてきた体操文化を共通財産とし、さらにグレードアップして地域に役立てる。体操関係者が地域の活動に足場を置きながら、体操活動を通じて研究と実践をする中で、取組めることとはどのようなことなのでしょう。

体操を通じて多くの人々の心身機能の低下予防や維持向上にかかわるだけでなく、社会的にも様々な組織とネットワークをもつことが重要です。ネットワークの中でお互いが学びあい、私たち自身が「気づき」の中で、社会的な課題解決を組織の協働で進めることも重要です。社会をよくするには自然治癒力が必要です。それは今を生きる一人一人が健康であることがカギとなります。

さて、本大会では「セーフコミュニティと体操ネットワーク」のテーマのもとに、文化と体操、脳科学の最前線と体操、セーフコミュニティによる地域連携と体操、動いて学ぶ体操の実践講座や研究、行政が提案する健康支援と体操全国サミットなど、これからの体操学会や体操にかかわる人々への新たな活動の方向性を共に考える多様な企画となりました。

地域に、私たちの体操を活かしていくには、今まで運動をしていなかった市民に体操を日常生活の中で実施してもらおう行動変容が求められます。ソーシャル・サポーターの養成、アセスメントや計画、指導力となる言葉とスキル磨き、出会いと深い愛情、心の豊かさをつくる動きの豊かさなどが必要です。

さて、体操コード表にありますように、今後必要とされる体操の理論構築のための取組み方法には様々な切り口があり、体操研究者や実践者の研究視点でのアプローチの仕方によって、地域の多角的な資源力（人・物・資金・情報）のネットワークを持つことができます。今回は体操という身体文化をコアに、ジャンルの異なる各界の皆様が大会の企画としてご協力をお願いし、ご快諾をいただきました。保津川ツーリストや軽費老人ホーム友愛園にもエクスカッションでお世話になります。お陰様で、亀岡市との学术交流の一環として市民公開講座としても学会にご協力いただき、多くの方々と学べる機会を得ることができました。最後に、学会準備には、一同総力を挙げて取り組んでまいりましたが、時間的制約から、不行き届きの面も多いことと存じます。なにとぞご容赦いただき、ご協力のほどお願い申し上げます。この大会開催にお力添えをいただきました皆様に心から深謝し、ごあいさついたします。